

# ゴシップ探して流行病を防止

## Gossip mongers push for national networks

Helen Pearson news050328-2/29 March 2005



鳥インフルエンザやその他の命にかかわるような流行病への対策として、一風変わった武器が活用されようとしている。公衆衛生の専門家が、うわさ話に聞き耳を立てるシステムを世界的に広げたいと考えているというのだ。

うわさ話に耳を傾けるなんて、壊滅的な被害をもたらす可能性のある微生物やウイルスを発見する方法としてはお粗末と思われるかもしれない。しかし、世界保健機関 (WHO) はすでに、「風評監視システム」を使って各種オンラインメディアを監視し、エボラ熱、コレラや重症急性呼吸器症候群 (SARS) の徴候を早い段階で見つけ出そうとしている。

WHO の西太平洋地域事務局 (フィリピン・マニラ) に所属する疫学研究者 Gina Samaan たちは、2004 年に実施された鳥インフルエンザの風評を探知する活動が、この疾患の鎮圧に役立ったかどうかを調べた。3 月に *Emerging Infectious Disease*<sup>1</sup> で発表されたこの論文は、風評の監視が実際に効果をあげていることを初めて示した研究の 1 つだ。

論文によると、ウェブサイト、新聞、電子メールや専門家から収集した 40 のうわさ話のうち、9 つが真実を伝えていた。さらにいくつかは、鳥インフルエンザの拡大を食い止める上で役立った可能性も認められた。

### 電子的にうわさを探る

これまでは感染症の流行の端緒は病院で発見され、それを政府関係機関に報告、

WHO に通報するという流れだった。しかし、このルートでは時間がかかりすぎる場合がある。多くの国では、病気を適切に監視し、報告するためのシステムがうまく成り立っていないし、この通報システムでは官僚主義や政治の中で機能不全に陥ることもある。

ところが電子通信とインターネットの普及によって、世界規模で広範かつ迅速に病気の情報を調べられるようになった。WHO はこれを利用して、1997 年に独自の風評監視ネットワークを構築した。

この監視システムの大黒柱となっているのが、カナダを拠点とする Global Public Health Intelligence Network という高性能検索エンジンだ。この検索エンジンは、「発生」や「流行病」といったキーワードを使って、オンラインで配信されるニュースやオンラインメディアの記事を絶え間なく検索し、情報の選別を行っている。検索対象言語は、英語、アラビア語など 6 カ国語にわたる。

そして専門家チームが、ヒットした情報が本当に世界的に心配すべき流行病の発生かどうか、病気の重篤度と情報源の信頼性をもとに判断する。世界各地の WHO 地域事務局に常駐する専門家は、関係各国に実際の確認をとり、対応のための支援活動を行う。

WHO は、この風評監視システムの有効性について独自に統計をとっている。2001 年 1 月から 2004 年 10 月の間に探知された数万件にもものぼる第一報から、この監視システムによって世界的

に重要な流行病の発生と思われるものが約 1,300 件特定された。そのうち、850 件が流行病の発生を正しく伝えていたと、スイスのジュネーブにある WHO でこのプロジェクトを指揮している Thomas Grein は説明する。

### 国単位での監視システム構築

Grein、Samaan やその他の専門家は、WHO が行っている国際的な風評監視システムと並行して、国単位で運用する風評監視システムを構築したいと考えている。国単位のシステムでは、自国にとっての重要な案件や病気に関する情報を発見しやすくするよう各国で異なる判定基準を設定し、情報の選別ができる。

今年は国際保健規則の改正が予定されており、これが施行されると多くの国々が風評監視システムの導入を迫られるかもしれない。改正案によれば、加盟国は数多くの病気についてリアルタイムでの監視を実施し、緊急事態発生の可能性を全世界に通報することが義務づけられる。この改正案は 5 月に開かれる WHO の世界保健総会で採択される可能性が高い。

「系統的な監視活動を行ってほしい」という Grein は、国際保健規則の改正により各国で従来型の監視制度と風評チェックのシステムの両方が構築、強化されることを望んでいるという。 ■

### 参考文献

1. Samaan G., et al. *Emerging Infectious Diseases*, 11. 463-466 (2005).